

オプション4

湖&カヤックであそぼう!

風もあり、気温も低かった今年の「湖&カヤックであそぼう」。例年の暑さはどこへやらという気候でしたが、子どもたちは、「へっちゃら。へっちゃら!」。カヤックで、湖に出れば、風と波がやってきて「浜に押し戻される!」。何度も、浜に押し戻されては、漕ぎ出し、いつの間にやら、ペアの息もぴったり、上手になって隣の隣の隣の浜までカヤックで出かけることが出来ました。そして、浜でのシジミ獲り。体全部、水につかって、寒さに耐えながらのシジミ獲り。それでも、獲りたいと頑張っ続け、いくつかのシジミが獲れました。大変そうだったけれども、やってみたら楽しかった! やってみたい想いを持って挑戦するときの子どもの持つパワーを感じた活動でした。

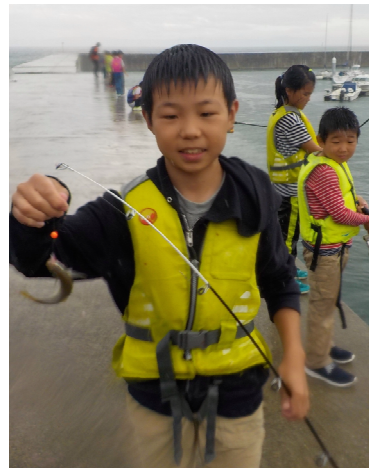


▲ 寒く、風も強い1日でしたが、子どもたちの「やってみたい!」と想ったときに出す力はすごい。自分の持つ、そのパワーに気づいてほしいと想っています。

オプション5

はじめての海つり!(9/22)

遠くにいる台風の影響で、大粒の雨が降ってきた!! でも、「こんな、へっちゃらやでー!」「普段やったら、外であそんでー」と、釣りをやめそうにない子どもたち。この日は、朝から、幸先良くアジが釣れ、サバが釣れ、カサゴが釣れ、子どもたちはいい気分。途中、アタリがこず、待つ時間があっても、「へっちゃら、へっちゃら。ご機嫌。自分で、自分の分の竿のセットもして、頑張った結果なのですから、それはご機嫌なはず。しかし、2時をまわる頃、大粒の雨。こんなチャンス逃してなるものかと、頑張れるのもすごいこと。さすがに、濡れると寒くなり、後ろ髪を引かれながら、撤収! 撤収したら雨も上がったのですが、納得行くまで頑張った子ども達。何だかやりきった心地よさを感じながら、帰っていったのでした。



▲ ずぶぬれになりながらも、釣る! 安全に問題が無い限り、納得行くまでやってみることも、とても大切なこと。雨が降ってから、大きなサバも釣れました!



オプションプログラム5 「はじめての海つり!(9/22)」



リトルコース3「はじめてのかわあそび!!」

＝冬休み「北海道スノー&犬ぞりチャレンジ!」開催のお知らせ＝

昨年度で、一旦終了致しました冬休みの「北海道スノー&犬ぞりチャレンジ!」ですが、復活のご要望を多数頂き、場所、内容を若干変えて開催することと致しました。昨年度まで、お世話になっていた犬ぞりは、犬たちをお世話するマッシャーの方の引退に伴い無くなりましたが、その犬たちを数匹引き継がれたマッシャーの方の所で、今年度、新たに実施することと致しました。それに伴い、冬休みのプログラムのスケジュールも変更になります。みなさまのぜひのチャレンジをお待ちしております。

あどベンデキタ?!

季節の変わり目です。お体、どうぞご自愛下さい。



Adventure Kids School

子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動報告

Report "adven Dekita?!" - アドベン デキタ

adven
Dekita



チャレンジ隊3 「四国のんびりカヤックツーリング!」

2019.Oct

通年コース活動報告

リトルコース3

「はじめてのかわあそび!」(年長、小1)

はじめての流れる川にドキドキする気持ちを上回るやってみたという気持ち。チャレンジがどんどん生まれます。上流に探検にでかけてみつけた、魚道とその上にできた大きなプール。飛び込んでみたり、上流に自分のシュノーケルを投げて流して、それを水のなかからとりあげたり、水底にいる魚を最後は自分でとりたいと粘ったり。もちろん、最後は、川流れ。ぶかぶか流れながら帰ってきます。すごい川のように想像していますが、小さな小さな小川。でもこどもの目線にたってその風景を眺めてみると、大きな大きな川。こどもたちにとっては、安心して丁度いい。安心出来る環境で、子ども達は、ドキドキするけど、やってみたら楽しいことがいっぱいあることを感じた一日でした



▲環境が整うと、こどもたちの挑戦心は、どんどん生まれます。背伸びしすぎてハードなことをするよりも、一歩一歩階段をのぼっていくほうが、こどもたちが感じることも、自分への自信をつけることも大きく、そして、それを次の挑戦にいかしていくことにつながっていきます。みんな、ニコニコ。結果、大きなことに挑戦している自分に気づき驚くのです。

ジュニアコース3 「チャレンジ沢あそびキャンプ!」(小3~)

沢での活動を、雨の影響により、海の活動に変更して実施しました。海は海で楽しみな子どもたち。美しい磯の海で、飛び込み岩を探し、ダイブをしたり、生きものを探したり、食べられる貝を獲ったり。実は、今年のジュニアのメンバーの多くは、キッズ時代、ミドル時代に、同じ海に行っているの、勝手を知りた場所なのです。それゆえに、「あれをやってみよう」「これをやってみよう」と前の経験を元に、自分の想いがあり、それを実現していています。前に、飛び込みを、時間を掛けて、勇気を持って飛び込んだメンバー。今回は、高いところから、あっさりダイブ! 何度もダイブ! 前は少ししか自分は獲れなかった食べられる貝。そんなくやしい想いから、今回はたくさんとってやると、貝獲りに夢中のメンバー。年齢も大きくなり、海の中を泳ぎながらしっかりとぞけるようになったメンバーは、魚の群れを見つけて大興奮。以前に自分の経験から感じた自分への想い。それを、自分で実現していくとする過程がたくさんあった2日間でした。



▲雨のキャンプも、へっちゃら。小さい頃から、宿泊を乗り越えてきた経験を活かして、余裕をもって過ごしていきます。同じ体験を、ある程度繰り返すことで、おもむね自分の成長感に出会えることもあります。

チャレンジ隊3 「四国のんびりカヤックツーリング!」(小5~)

とにかく早い! テントをたてるのも、カヤックを15艇ふくらませるのも、撤収も、食べるのも、そして寝るのも! びっくりするくらい速さで、何でも進めてしまう子ども達。でも、当の本人達は、平然とした顔をしています。子どもの経験から吸収する力、それを工夫して活用する力って素晴らしい。カヤックでは、ジュニア時代の湖の2kmツーリングから発展して、海でのカヤック。そして、最終日には、流れる川でのカヤック。子どもたち自分たちの力でやれるようにと、小川から出発し、ひとつの支流の終わりまでの川の旅。途中、カヤックからおりて、川流れ!(それやったらカヤックいらんやん!)、何とも美しい淵で飛び込んだり、湧水から成るこの川には野生のクレンソウも生え、それを摘んだり。1年前のジュニア時代のカヤックをベースに、余裕を持って、更に大きく挑戦していく子どもたちがいて、それぞれがそんな自分を感じて、そしてまた、自分をいいなと想えるきっかけになればと想っています。



ミドルコース4 「はじめてのインドアクライミング!」(小3~)

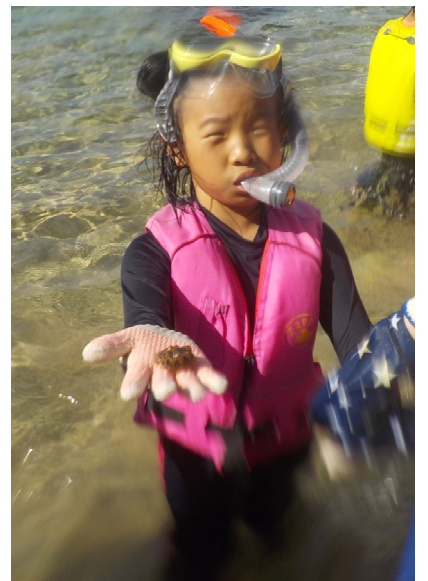
てっぺんを目指すクライミングではなく、自分の目標に挑むクライミング。クライミング選手を養成するわけでは無いので、上手な格好で登る必要もないし、もちろんてっぺんまで必ず行ける必要などありません。しかし、大切にしてほしいのは、自分の目標に対して挑めたかどうか。もうだめと思ったときに、挑み切れた、頑張れたかどうかです。それは、自分だけが本当のことを知っています。結果、目標地点に行けなかったとしても、終わった後に「僕、めっちゃがんばれたわー」と心から言えること。そこが大切です。1日を掛けて、何度も挑戦し、そのたびに計画的に到達点の高さを上げていき目標地点まで行ったメンバー、とりあえず1回1回の挑戦で頑張れるところまで行き、最後には目標を到達したメンバー。1回の挑戦で必ずてっぺんまで行き全3ルート制覇しようと挑戦したメンバー。おまけで開いた4ルート目のオーバールーティング(90度反り返った壁。難易度は最上級)を本気で攻略しようと挑むメンバー。思ったよりも自分には難しかったり、高さが怖かったりして、目標地点までは行けなかったけれども、無理になるまで頑張ったメンバー。それぞれ自分がもう無理と思ったときに自分はもうどうだったのか? 本当はどんな気持ちだったのか? 自分をいいなと想えたかどうか? それらを知り、今後、ミドルコースでも、日常でも、自分がどのようにありたいのか意志を持ち、それぞれの壁に挑んでいくことが大切だと想っています。



自分の目標も様々それを達成するための方法も様々。自分だけの挑むか? それとも、終わらないうちから次の壁に挑むか? それか、次の自分の在りようへつながる。

キッズコース3 「シュノーケリングキャンプ!」(小2~)

ほとんどが2年生のキッズコースのキャンプの夜。それは、子どもたちには結構つらい夜です。高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんがいると頼れてまた違うのですが、今年のキッズはほぼ2年生同士。頼ろうにも、みんな自分で精一杯(当たり前です、7歳児ですから)。日が暮れるまでは元気いっぱい。海の活動も、テント設営も、食事作りのお手伝いも、エネルギーに動き回ります。しかし、暗くなるとやっぱり親御さんが恋しい。そうすると、テントでもなかなか寝付けず、つらい夜がやってきます。でも一夜明けると、また元気なみんなに! 最初はつらいけど、経験したことには余裕が持ていく。そんなつらいことのりこえていく、小さな積み重ねが、キッズの子ども達のこれからの世界を拓いていく礎になればと想っています。



▲小さな積み重ねが、自分を、世界を、大きく拓いていく礎になります。いきなり大きなことは、誰もできないものです。少しずつ、あせらず、ゆづりじづり、大きくなっていくためのちからを蓄えていってほしい。つらいことをのりこえてみる経験の、小さな積み重ねも、そのひとつ。

